



フォーラムたより

2023
10月号
No.62

御礼祈願祭の報告

首都圏布教御礼祈願祭 教話

「布教と連帯」

金光教白金教会長 和泉 正一師

金光教首都圏フォーラムは、六月十七日（土）、金光教センタービルで、首都圏布教百三十五年の首都圏御礼祈願祭をいたしました。この祭典は、天地金乃神様、生神金光大神様、歴代金光様、さらに首都圏布教功労者の霊神様にお礼を申し上げ、さらなる首都圏布教の展開を願うものです。例年は、ご霊地でお仕えしてきましたが、

皆さま、首都圏布教百三十五年の御礼祈願祭、まことにめでとございます。本日は「布教と連帯」ということで、しばらくお話し申し上げたいと思います。

この言葉は、首都圏布教百年の時に、首都圏布教の課題を整理・集約したもので、「布教」とはお道を伝える伝道活動のこと、「連帯」とは「みんなでやる」という意味です。

師（首都圏フォーラム議長）、祭員・鈴木一監師（千葉県教会連合会）によって伝えられ、祭典後、和泉正一師（白金教会長・元首都圏フォーラム議長）により「布教と連帯」と題した教話がありました。教話の要旨を掲載いたします。なお、祭典の様子と教話は、首都圏フォーラム YouTube チャンネルでも視聴できます。



連帯というキーワードに課題を集約したと言っても、布教活動や連帯して行う活動というのは、東京布教の当初からありました。明治二十一年から次々にお広前が開かれていきますが、

一方、教団でも昭和五十年代には、「教団一新」ということで布教体制というものが目指されました。また東京教会の畑齋先生も、確かその頃に「東京布教」という言葉を改められて、「東方伝道」というお言葉にされたというふうには私は記憶しております。信仰活動には、道を伝える伝道活動と道を求める求道活動が

あります。これらは截然と分けられるわけではありませんが、伝道的色彩が濃い活動とか求道的色彩が濃い活動というのがあるわけです。首都圏布教百年の時にもそのような意味で、求道的な意識と伝道的な意識というのがありました。

当時の取り組みで先ず重要なことは、「首都圏布教祈願詞」が制定されたことであると私は思っています。そこには首都圏布教の理念的な意義づけがなされており、また首都圏布教とは何をすることなのかという実践目標も示されています。求道と伝道という信仰実践の促しが書かれているわけです。その他、東光園の碑の前における「首都圏布教御礼祈願祭」の執行、首都圏五箇所での「首都圏布教百年集会」の開催、布教を課題にした「首都圏団体参拝」の運行を挙げることができます。団参は、往路・新幹線貸し切り、復路・観光旅行と

いうことで、信者さんが友達を誘って団体参拝出来るように配慮したものです。その後、布教が無くなって物見遊山だけの観光旅行になってしまったのは残念なことです。「首都圏交流教話」の実施、次代を担う人材育成のための「首都圏布教研究会」の設置、首都圏布教の教義的意義づけを求めた記念冊子『神の世に』の刊行なども特筆すべきことでしょう。

今年、百三十五年を迎えた首都圏布教の今後を見通すときに、何かヒントになるものがないかと私は考えるのですが、これからは、「生神の道」というこ

とがキーワード、ヒントになるのではないかと思っています。本部教庁から、平成元年に教典抄『天地は語る』が刊行され、平成十五年に新しい『金光大神』が刊行されました。これらの書物の最終章は、いずれも「生神の道」で締めくくられています。金光大神様のご理解に「生神」ということ、ここに神が生まれるということであり、

これは非常にダイナミックな信心を教えてください。金光大神様は、「生神」を、また「金光大神」を、万国の人々に開放されました。それは、「生神」という力強く躍動的な信心をもって人民救済のことを為そうとされたからです。神様のお知らせや、直信方が伝えておられるご理解を拝読いたしますと、「生神の共同体」、「神代の共同体」とも言って良いような信仰共同体がイメージできます。その

首都圏災害ボランティア支援機構からのお願い

金光教首都圏災害ボランティア支援機構

常日頃より、首都圏災害ボランティア支援機構の活動にご理解ご協力を賜り、誠に有り難うございます。

地球温暖化の影響もあり毎年のように自然災害が多発しておりますが、ここ3年ほどはコロナ禍のため活動し難い状況が続いておりました。しかし、今年に入って遠方からのボランティア受け入れを表明する被災地も増えつつあり、支援機構としましても今後は被災地支援を再開し、以前のようにボランティア派遣に取り組んで参りたいと思っております。

つきましては、災害発生時の息の長いボランティア派遣のために、引き続き支援金のご協力をよろしくお願いたします。

ご支援いただける方は、下記までお願いいたします。

「みずほ銀行 本郷支店 普通預金 2765405
金光教首都圏地震等災害ボランティア支援機構」



ような共同体を目指して首都圏布教を進めていくことが、これからの課題であろうと思っております。最後にこの場を借りて申し上げますが、巷間、「金光教首都圏フォーラム」という名称は、藤井憲一先生の命名であると言われているようですが、それは間違いです。この名称は、当時の首都圏八ヶ教会連合会の会長の合議で命名されたもので、訂正しておきます。

茨城・栃木教会連合会

六月二十四日(土)午前十時半より小山市生涯学習センターに於いて、教師・信徒合同研修会を開催した。

前年同様の午前中のみのプログラムの下、連合会長によるテーマ発題「お役に立つ信心実践」社会とともに「」が行なわれ、参加者十三名は準備された資料を全員が交代で読み進める形で研修を進めた。その中で、①教会は社会に奉仕していく存在であり、信心の実践は人(社会)のお役に立つことを再認識し、②人を助ける働き実践の心得を「天地は語る 第五章 第三節」と四代金光様の御理解「話し合いは聞き合いを土台にして」を基に、目と耳と口を通じて各々が深め合った。



続いて自由懇談では、社会に開かれた金光教団であるためにも、①教祖様の信心を現代の言葉で表わし、②日常生活ひとつ一つを神様のお

かげ・信心実践と捉え相互に認め合うことを通じたお道伝え(伝道)に、教団・教会・信徒が一体となって取組む必要を確認し閉会した。

群馬・埼玉教会連合会

七月三十日(日)、講師に金光教LGBT会会長の井上真之先生を迎えて「群馬のつどい」を開催。オンラインを含め四十八名が参加しました。

「LGBTとお道の信心」全ての人の助かりと輝きに向けて」との講題のもと、多様な性のあり方についてLGBTや性的指向(好きになる性)、性自認(こころの性)を包括して表すSOGIという概念などを説明されました。そして、自身が性的指向で悩み苦しむ中で、お取次によって心が救われ、やがて会創立に至った経緯を話され、最後に、「教祖様は生

参加者から「性的少数者を含め、社会的少数者の人々がどのように不利益を受け、つらい思いをされているのか、実感できた」、「お取次の

言葉に感銘を受けた」といった感想が聞かれました。



千葉県教会連合会

七月三十日(日)青年育成祈願祭を木更津南教会にて、開催致しました。

祈願祭は十時から、祭主、連合会長・鈴木宏政先生、祭員・楽人は、青年教師によって仕えられました。

祭典後の講話は、横浜西教会長・山田信二先生によって、『金光教の新しい信心』という講題でお話を頂きました。

「日柄方角を見て金神を避けようとする風習や信仰を破り、逃げ回る信心から頼っていく信心へ。天地の神様の子供として、どこまでも親である神様に頼み縋っておか

んをさせていただき、美味しいひと時を過ごしました。



東京都教会連合会

食事を頂きながら、参加していた小学生が、「信心は新しい人の新人だと思った」と発言があり、それに対し、隣にいた教師が、「教祖様の信心を現し、新しい人に生まれ変わっていくんですね」と話しており、和やかな共励会もさせていただき、心もお腹も満腹の集いが出来ました。

東京都教会連合会は第三分会と共催で、七月二十九日(土)金光教館イーストホールにて「教祖百四十年集会」映画『おかげは和賀心にあ

年)当時、東京布教センター所長であり、本映画の教団側プロデューサー的立場であった川上功績先生(品川教会長)が、教団一新のシンボルとしての映画製作の狙い、

背景などを語ってくださいました。

その講演を受けた上で映画を上映。初めて視聴する方も参加者の三割程を占めました。教祖様の後半生が描かれた映画の中身に触れ感動も冷めやらぬ中、本映画を成功させる会の会長であられた大田陽子氏(世田谷教会)が、当時の映画撮影中の写真や、映画完成から今日までお付き合いが続いている俳優方との交流の写真などをスクリーンに映し出し、制作秘話など熱弁され、会場は笑いに包まれました。



本集会は、Zoomによる配信もされ、リモートで参加された方が三十三件四十三名、直接会場にいられた方百十六名。首都圏各地の教会を含め三十教会が参加。盛況の中閉会致しました。

神奈川・山梨教会連合会

六月二十三日、毎年恒例の「女性のつどい」を横浜西教会で開催しました。発表者は

同教会信徒の岩井和子さん。岩井さんは、サクソフォンの演奏と指導に当たっています。

ご自身の生き方を支える信心について、「音楽家というのは個人事業主。神様にマネージャーをお願いして生きてきました。神様にお任せの生活は、安心でとても生きやすい生き方であることに気づきました」と語りました。参加者はお話だけでなく、生の演奏に酔いしれました。(参加者三十七名)



七月二日には、教祖百四十年「教師信徒研修会」を神奈川公会堂で開催。テーマは「これからの信心」。講師には東京センター所長・嶋田洋先生をお招きしました。講話後、教師一名信徒二名が発表しました。嶋田先生は、「教祖様は、信心して神になる道を歩まれ、私たちに教えてくださった。人を助けること、神の道を伝え広げられることを教祖様が生涯をかけて求められてきた。その生神の道を迎えることが私達のありようではなかるうか」と語られました。(参加者三十一名)